

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和7年6月13日（金）

2 確認箇所

共用プール建屋（図1）

3 確認項目

使用済燃料共用プールライナドレンにおける流量高警報発生事象に対する対応状況

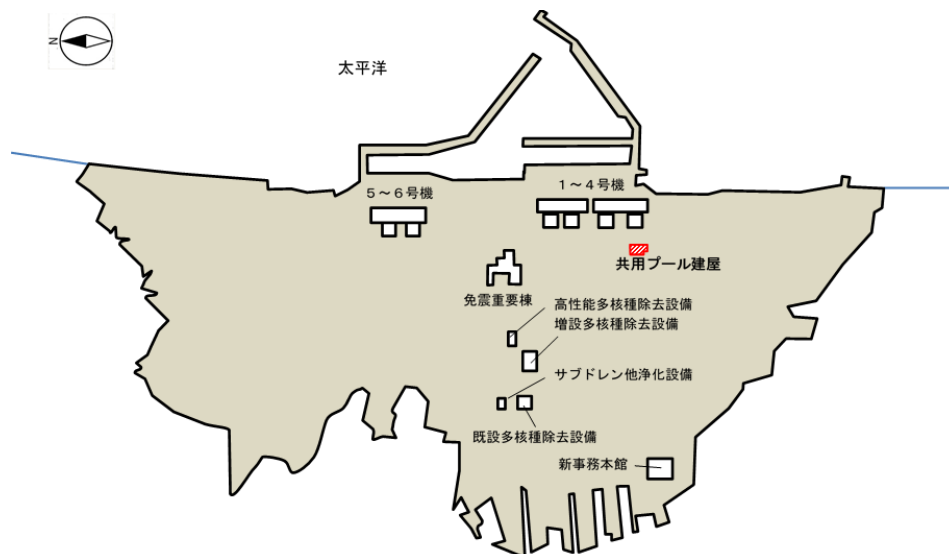
4 確認結果の概要

東京電力は、使用済燃料の保管にあたり、各原子炉建屋の使用済燃料プール（SFP）での保管と比較し、共用プールにおける集中保管の方が安全性が高いため、使用済燃料の共用プールへの移送を進めている。一方、十分に冷却が進んだ使用済燃料は、共用プールの空き容量確保のため、乾式キャスク（1基あたり使用済燃料を69体保管可能）に装填し、構内の乾式キャスク仮保管設備に移送している。

東京電力によると、令和7年6月10日、使用済燃料を格納した乾式キャスクの搬出に向け、共用プール外でキャスク上部に溜まった水をホースで吸引して共用プールに戻す作業をしていた。その作業中、午前9時50分頃に使用済燃料共用プールライナドレンにおいて、流量高の警報が発生し、ライナドレン配管に液体が流れていることが確認された。

東京電力は、現場確認の結果、ロープで固定していた出口側のホース先端部がプール外にずれ、ホース先端部から出た水がライナドレンに流れ込んだものと推定し、再発防止策を講じた。このことから、本県では講じられた対策の状況を確認した。（前回確認：[令和7年6月12日](#)）

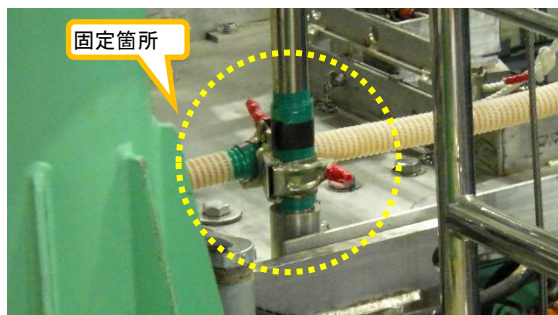
- ・ 出口側のホースが外れないよう金属製クランプ（留め金）により、固定されていることを確認した。また、出口側ホースの先端は出た水が共用プールに入るよう設置されていた。（写真1）
- ・ 共用プール周囲の溝には今回の事象で溝に流入した水を吸着するために、布が敷設されていた。（写真2）
- ・ 東京電力によれば、排水作業中は、監視人をたて、固定器具によるホースの固定に問題がないこと、プールに問題なく排水出来ていることを、常時監視する体制をつくるとのことであり、再発防止策を明記した手順書を本日中に作成の上、明日から作業を再開するとのことであった。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



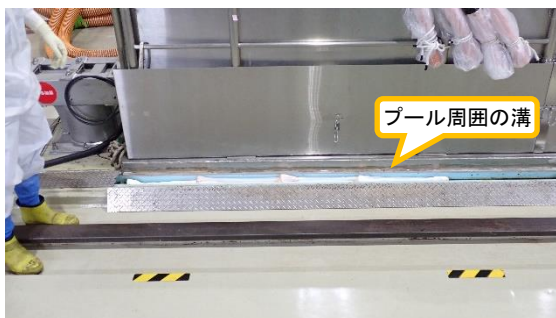
(写真1-1)
ホースの設置状況



(写真1-2)
ホースの固定状況



(写真1-3)
固定状態の確認作業



(写真 2－1)
プール周囲の状況



(写真 2－2)
排水口周辺の状況

5 プラント関連パラメータ等確認

本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。